

震災から何を想うか

代表者 長尾彰紀（教育B3年）
構成員 高見研之介（経済B3年） 玉木浩也（教育B3年） 岩田春菜（農学B3年）
田島敬子（経済B2年） 井下智晴（経済B2年）
柏原幸成（経済B4年） 河野郁恵（経済B4年）

1. 4月～3月の活動

- 4月 おもしろプロジェクトの採用を受けてグループの拡大のため、新入生を中心に勧誘をした
- 5月 ツアーの概要を決め、日程を決めた
- 6月 ツアーでの宿等の予約、東北の学生との意見交換。広報活動
- 7月 広報活動
- 8月 参加者との交流、直前のツアーの内容確認
- 9月 ツアー
- 10月 ツアーの反省会
- 11月 小学校の避難訓練に参加
- 12月 避難訓練に参加して初めての反省
- 1月 2月に行われる広報活動の準備
- 2月 広報活動
- 3月 会議中心



2. スタディーツアーの内容

- 9月 9日 山口大学 17:30 発 — 防府東 IC ～～（車中泊）～～
- 9月 10日 ～～ 仙台 IC — 仙台駅 — 桃生津山 IC — <南三陸町「さんさん商店街」>
— <五大堂> — 9:00（現地バスに乗り換え） — <瑞巖寺>
— <青葉城跡> — 仙台市内（泊）【宿泊地：仙台市内森重旅館】
- 9月 11日 旅館 — <南相馬市被災地視察> — <福島市での学生との交流>
— いわき市内（泊）【宿泊地：大松旅館】
- 9月 12日 ホテル 7:00 発 — <南相馬市でのボランティア 8:30～17:00> — 桃生津山 IC ～～
- 9月 13日 ～～ 途中 SA にて朝の休憩（約30分） ～～ 防府 IC — 山口大学 11:00 着
※ — : バス移動 ～～ : 高速道路

<南三陸町「さんさん商店街」>

津波の被害を受けた商店街が仮設住宅で場所を移して営業していた。お店の方々に震災当時のお話を聞かせて頂いた。

<五大堂>・<瑞巖寺>・<青葉城跡>

震災の影響で東北の旅行に行きづらくなっている。この現状を打破するために参加者に東北の良さを知ってもらうため周った。

<南相馬市被災地視察>

現地の方にガイドをお願いして被災位置の視察を行った。

<福島市での学生との交流>

東北の学生と交流することでそれぞれの活動の情報交換、これからの活動について話し合い意識を高め合った。

<南相馬市でのボランティア>

ボランティアセンターにおいて被災地の家屋の除草作業、清掃に参加した。



3. スタディーツアー参加者の感想

東北へ行きたい、ボランティアがしたい、という単純な理由で東北スタディーツアーへの申し込みを決めました。ツアー内容はとても充実していて、価値のある経験ができたと思います。

初日に宮城の南三陸、松島、仙台、2日目に福島の南相馬、福島市内を回り、被災地の見学をしました。地域により被災の度合いが大きく異なることに驚きました。津波が到達した海側の街は、津波ですべて流されて、震災から2年以上も経つ現在もまだ復旧作業中であるのに対し、内陸の仙台、福島は街全体として目立った損傷は見られず、ほぼ元通りになっていました。この差を目の当たりにして、改めて津波の恐ろしさを痛感しました。

福島大学の学生さんを交えて行ったワークショップでは、大学、学部、学年を超えた意見交流を通して、震災やボランティアについての考えを深めることができました。私は今まで、ボランティアは、他人にためではなく自分のためにするものだと思っていましたが、それだけではただの自己満足で終わってしまうことに気づかされました。ボランティアは、「やってあげる」や「やらなければいけない」という意識でなく、「やるのが当たり前」くらいの気持ちでできたら一番いいのかな、と思いました。

最終日のボランティア活動の内容は、原発 20km 圏内の震災住宅の家具撤去、という、自分の想像とは全く違うものでした。震災で自宅を手放さざるを得なくなった家主の方のことを思うと、複雑な気持ちになりましたが、前日のワークショップで考えたことを思い返しなが、一生懸命作業に取り組みました。今回は1件のボランティア活動にしか携われませんでした。復興の一部に直接加わることができてよかったです。

このスタディーツアーに参加してみて、被災地の現状を知るには、メディアの情報に頼るのではなく、実際に現地に行って、自分の目で被災地を見ることが必要だと思いました。さらに、そこで得た情報や、経験し学んだこと周りに共有し、周りを巻き込んでいけば、震災に対する意識も高まり、復興への追い風になるのでは…と思います。なので、今回の経験を無駄にせず、次につなげていきたいです。

<農学部 H さん>

4. 今後の活動

1年間を通して、去年行ってきたような活動を今年も内容を変えながら行うといった形をとりました。しかし、今年活動を行って来て感じたこととして震災についての意識が私たち大学生の周りで急速に薄れてしまっていることでした。この状況でまた来年も同じシステムで行うことは厳しいと痛感しました。今後、会議を重ね改善していきたいと思いました。

今年は、去年に比べて広報活動の規模が大きくなり、またあらゆる年代の方にむけて行うことができました。これを持続していけたらいいなとも思っています。それに加えて、東北だけでなく、山口県でも水害で被害を受けた地域があります。そこで何かできることがあれば活動を行っていきたいと考えています。